

学都屋台食談

第1回

株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長

はまだ
なほのり
濱田 尚則氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月6日から11月19日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で13年目を迎えた食談で、講師が語ったメッセージを紹介します。

I-O DATA

自分の中のワクワクが道を作ってくれる

チームがうまく機能すると 突き抜けた結果を出せる

アイ・オー・データ機器ではミーティングを開く前に、あることをします。『チェックイン』と言うんですが、皆さんもやってみませんか。

何をするかというのと、今、この瞬間の気持ちを素直に言葉にするんです。いいことを言う必要はありませんが、気が向いた人から話す、話した内容を否定しない、全員が話し終えてから会議を始めるなど、いくつか決まりがあります。

当社がチェックインを取り入れたのは、コミュニケーションを活発化して、集団的知性が現れるのを期待してのことです。集団的知性とは、チーム自体にあたかも知能や人格があるかのように見える状態のことです。これが現れると圧倒的なパフォーマンスを発揮できると知られています。つまり、特別な才能がなくても、チームをうまく機能させることで、素晴らしい成果を生むことが可能なのです。

自分の核があつてこそ オリジナリティーが輝く

そもそも、当社が集団的知性を重視するようになったのはここ数年のことです。会社の強みであったオリジナリティーが色あせつつあったことがきっかけでした。実は、当社は2004年をピークに業績がジリジリと後退し、長い低迷に陥ったのです。

この間、何に注力していたかという点、新製品を安くスピーディーに投入するローコストオペレーションです。結局、それでは個性のない当たり前の製品しか作れず、状況がよくなることはありませんでした。

そこで、これまでの当たり前を見直し、自分たちが何に価値を感じていて、どうありたいかを再認識するために始めた取り組みの一つが、チェックインなのです。

「ありたい姿」を意識できると、思考も、行動も、結果も変わってきます。自分たちが「ワクワク」するものを作つてこそ、仕事が楽

しくなりますし、ユーザーも製品にワクワクを感じてくれます。逆にワクワクがなければ、仕事は単なるストレスでしかないでしょう。

ですから、学生の皆さんには、ぜひ自分がワクワクできるもの、できれば1時間くらい熱く語れるものを持つてほしいですね。それを手がかりにして、自分の性質や核になる価値観を知ることにもなります。

「ありたい姿」の意識が 決断と行動の後押しに

もちろん、今、ワクワクするものがなくても構いません。私自身も出会えたのは、アイ・オー・データ機器に転職してからのことです。ただ、入社動機が東京で働くことだったのであまり胸を張れませんが(笑)。

とはいえ、周囲から猛反対されながらも、バブル真っただ中に地元金融機関から飛び出す決断をし、行動に移せたのは、「狭い世界を出て、いつか東京で働きたい」と自分のありたい姿をずっと意識していたからこそだと思います。

もちろん、今の会社でワクワクと出会えたことは、偶然なのか必然なのか誰にも分かりません。けれども、決断と行動がなければ、出会いはありませんでした。

皆さんも、何かを選択する際は、ぜひ自分の「ありたい姿」に思いをはせてください。結局のところ、何事も楽しんだもの勝ちなのは、間違いありませんから。



講師

株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長

濱田 尚則氏

はまだ・なほのり

1965年、石川県金沢市出身。石川県立金沢商業高等学校を卒業。大野信用組合(現金沢中央信用組合)での勤務を経て90年4月にアイ・オー・データ機器に入社。東京営業所にて営業を担当。営業部部长、CS部部长、常務取締役事業戦略本部本部部长を歴任。2017年9月に代表取締役社長就任。



参加
学生

前列左から中山泰穂さん(金沢星稷大学3年)、随念和香子さん(金城大学3年)、後列左から、岡本朋樹さん(北陸大学3年)、高橋光彦さん(金沢大学3年)、鹿ノ内大介さん(金沢工業大学3年)

企画/㈱アドマック 編集/㈱都市環境マネジメント研究所